

令和6年度 学校総合評価

○ 今年度の重点目標に対する総合評価

重点課題は学校の現状を踏まえ、5つの分掌でそれぞれ設定し取り組みを行ってきた。各重点課題についての取組状況や評価の詳細は、アクションプランに示したとおりである。今後、さらなる指導の改善や生徒の意欲向上を目指して努力していきたい。

本校が作成し、掲げている「UDGs（人生を変えるための17の目標）」の取り組みを推進するため、UDGsを用いて「自ら考え判断する活動」や「主体的に取り組む活動」を授業に取り入れた教員の割合、UDGsの各項目のうち身についたと感じた項目が年度当初より2つ以上増えた生徒の割合、ICT活用指導力向上を目的とした互見授業を実施し校内研修会に参加した教員の割合を目標に掲げたが、多くが未達という結果となった。

年間の無遅刻生徒の割合向上については、生徒指導部の登校指導に加えて、時間ぎりぎりに登校する生徒への声掛けや、各学期の始業式・終業式で、基本的な生活習慣を確立させることの大切さを伝えるなどの取り組みを進めてきたが、今年度は目標を達成することができなかった。

就職支援に関して、自分の進路決定先に納得している生徒の割合については、今年度も好調な求人状況に支えられ、目標を達成することができた。

部活動については、部活動加入率および積極的に活動している割合を目標とした。中学校では部活動の加入が任意になっているものの、1、2学期末に各部活動顧問による活動状況の評価とコメントを学年主任や担任に提供し、保護者懇談会を利用した個別指導に生かせるよう配慮することで、目標を達成することができた。

規則正しい生活習慣の定着については、睡眠の大切さについて意識させることとし、睡眠時間の確保を目標に設定した。生活習慣調査の結果に基づく個別指導の実施、外部講師を招いての集団保健指導などにより、24時以降に就寝した生徒の割合の減少に繋がる目標を達成することができた。

○ 次年度へ向けての課題と方策

UDGsの項目を意識した授業を行うことで、生徒は自己肯定感を高めていくため、UDGsの項目を活用し、生徒にどのような資質・能力を身につけさせるかの視点を織り込んだ授業の仕組み作りを定着させ、授業研究や授業改善につなげていくことが課題である。また、ICTについては、知識の定着や技能の習熟、グループでの協働活動などで効果的に用いるなど、授業時の積極的な活用を推進していきたい。

無遅刻生徒の割合向上については、生徒への適切な声掛けを中心とするコミュニケーションをとりながら、各学年との連携を密にして、全体で粘り強く指導していくことが重要と考える。また、特効薬はないものとして捉え、地道な声掛けを実践していくことも大切である。

進路指導については、良好な結果であった理由は、潤沢な求人状況であり、大多数の生徒は第1希望先への選考試験を受け、内定をいただいたためである。今後、求人状況に依らず、進路相談に対して丁寧な対応を心がけ、家庭と連携を強めていく必要がある。

特別活動については、今年度と同様、学校全体で生徒に部活動の大切さを積極的に呼びかけ、加入率・積極的参加率を維持、継続できるようにする。また、部活動の運営面について、在籍生徒数の減少により合同チームになった場合の取り決め等も今後考えていかななくてはならない。

規則正しい生活習慣の確立に向けては、睡眠の時間だけでなく質も大切であると考え。質問内容をさらに工夫し、生徒の睡眠の質についても分析できるようにし、改善に繋げていきたい。

○ 学校アクションプラン

令和6年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業を目指した互見授業・教科別校内研修会の実施と育成すべき資質・能力の伸長を図る授業の工夫
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をはじめとした学習活動に対し目的意識や基礎的な学力がやや不足しているが、UDGs（人生を変えるための17の目標）の取組に興味を示し、自己の成長を望む生徒が多くみられる。 ・学校生活では、挨拶や清掃活動等をきちんと行うことができるが、授業や実習では、指示を待つ傾向が強く、自分で考えたり、自ら解決したりしようとする態度が不足している。将来、自己課題を解決し、やりたいことが実現できる資質・能力を育成する必要がある。
達成目標	①UDGsを用い、「自ら考え、判断する活動」や「主体的に取り組む活動」を授業に取り入れた教員の割合
	80%以上
達成目標	②UDGsの17の項目の内、身についた（評価4）以上と感じた項目が年度当初より2つ以上増えた生徒の割合
	70%以上
達成目標	③ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別校内研修会に参加した教員の割合
	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科横断しながら育成を目指す資質・能力」の明確化と共有を図る。 ・UDGsを活用した授業の実践を行い、各教科の知識・技能だけでなく、「自ら考え、判断する活動」や「主体的に取り組む活動」を取り入れ、育成すべき資質・能力の伸長を図る。 ・UDGs自己評価を定期的に行い、自己肯定感を高め、成長の歩みをキャリアパスポートに記録する。 ・タブレット端末の効果的な活用方法や可能性を探り、その利用を推進する。 ・互見授業の開催・参加がしやすい環境を作り、多くの教員が研修会に参加するよう各教科へ働きかけを行う。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ① UDGsを用い、「自ら考え、判断する活動」や「主体的に取り組む活動」を授業に取り入れた教員の割合 72.9% ② UDGsの17の項目の内、身についた（評価4）以上と感じた項目が年度当初より2つ以上増えた生徒の割合 1学年61.3%、2学年70.4%、3学年51.6% ③ ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別校内研修会に参加した教員の割合 47.9%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習指導委員会を4回開催し、UDGsを取り入れた授業実践の情報共有を実施した。教員間連携による教材開発、教科間連携による授業実践などの成果を得た。 ② UDGsの自己評価アンケートの入力結果を生徒へ配付し、学期毎に振り返りが行えるように改善した。面接週間等を利用して、担任と生徒が目標設定や、成果の確認に利用できるよう配慮した。 ③ 例年通り11月第1週の保護者参観期間に互見授業、ならびに教科別研修会を実施した。
評 価	<p>C</p> <p>各目標に対して未達であったが、年間を通してUDGsをキーワードに学習活動・行事を行い、生徒の成長を感じ取れる1年となった。授業改善につながる、異なる教科間での授業連携の実践もあり、良い環境を構築できた。</p> <p>3学年のUDGs振り返りアンケートでは、課題研究活動で課題解決に取り組み、自己成長を感じることができたとのコメントが多数見受けられた。</p>
学校関係者の意見	目標②は生徒の意識や行動の変容を評価する物差したが、目標①、③は教員に対する取組み結果であり頑張っていないと受け取れる。これではガバナンスが効いていないと言わざるを得ない。ICTの利活用も大事である。他校の状況も調査し、参考にされると良い。
次年度へ向けての課題	UDGsの項目を意識した授業を行うことで、生徒は自己肯定感を高めていくため、UDGsの項目を活用し、生徒にどのような資質・能力を身につけさせるかの視点を織り込んだ授業の仕組みづくりを定着させ、授業研究や授業改善に繋げていくことが課題である。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の低さから、安易に遅刻をしてしまう生徒がいる。 ・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的生活習慣を確立する必要があり、生徒指導部では毎朝登校指導を行っている。 ・過去の遅刻回数はR3年度199回、R4年度194回、R5年度238回であり、ここ数年は、体調不良での遅刻が最も多く、起立性障害のある生徒もいる。 ・昨年度の統計結果をみると、特定の生徒が体調不良による遅刻を繰り返していた。また、遅刻5回以上の生徒が12名おり、総遅刻回数の約79%(188回)を占めた。12名の遅刻理由は、約85%が体調不良であった。この結果を踏まえ、遅刻に対する指導方法の改善が必要と考えている。 <p><参考>R5年度の無遅刻生徒の割合(76.6%) ※通院等を除いたもの。体調不良を含む</p>	
達成目標	年間の無遅刻生徒の割合(通院等、体調不良を除く) 85%以上(230名以上)	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻しないための事前指導を充実させる。学校全体であらゆる機会、場面で基本的生活習慣の確立および時間厳守の大切さについて指導する。 ・遅刻した生徒には、その都度声掛けをするとともに必要に応じて面談をし、遅刻の原因を考えさせ、自らの力で改善できるような指導を心がける。 ・遅刻を重ねる生徒には、学年・学科とも協力して個別指導を行う。 ・学年と協力し、朝学習への積極的な取組みを促す。 ・食事、睡眠を正しくとるなど、自己管理、体調管理の徹底を呼び掛ける。 	
達 成 度	年間の無遅刻生徒の割合(通院、体調不良等を除いたもの)76.4%(207名) 寝坊等による遅刻生徒の割合23.6%(64名)※1月31日現在	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部員を中心に毎朝登校指導を実施している。また、多くの教職員の協力を得て、さわやか運動及びあいさつ週間において登校指導を実施した。 ・始業間際に登校してくる生徒を中心に粘り強く声掛けをし、余裕を持って早めの登校を心掛けることを促した。 ・寝坊等で遅刻した生徒には、翌朝一緒にあいさつ活動を行いながら指導し、反省と今後の改善に向けて考えさせた。 ・各学期の始業式、終業式で基本的生活習慣の確立の大切さについて呼びかけた。 	
評 価	C	1月31日現在で無遅刻者数は76.4%(207名)であり、目標を下回った。昨年度の76.6%が体調不良等による遅刻を含むことを考慮すると寝坊等による割合は増えたことになる。ただ、遅刻回数が1回の生徒の割合が約73%(47名)であり、遅刻を繰り返す生徒を4分の1程度に抑えられたことから、指導の効果はあったと思われる。(遅刻2回以上17名 ※うち5回以上5名)
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・魚津工業高校の生徒の挨拶はよい。 ・暖かい指導(心のある指導)をしてもらいたい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への適切な声掛けを中心とするコミュニケーションをとりながら、各学年との連携を密にして、全体で粘り強く指導していくことが重要と考える。 ・集会等での全体に向けた指導、呼びかけも継続していく。 ・特効薬はないものとして捉え、地道な声掛けを実践していくことも大切である。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援											
重点課題	進路意識の高揚											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。 ・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。 ・進学者の中に、目的が明確ではない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。 ・3学年93名の内、65名が就職を希望している。 											
達成目標	自分の進路決定先に納得している生徒（学年末にアンケート調査を行う）の割合											
	92%以上（85人以上）											
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。 ・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。 ・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。 ・入れる会社・学校からぜひ入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。 											
達 成 度	<p>進路指導アンケート「自分の進路決定先に納得をしていますか。」との問いに</p> <table border="0"> <tr> <td>「ア 十分納得している。」</td> <td>77名</td> </tr> <tr> <td>「イ どちらかといえば納得している。」</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>「ウ どちらかという不満である。」</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>「エ 全く不満である。」</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>「オ その他」</td> <td>0名</td> </tr> </table> <p>アとイを回答した生徒の割合 95.6% 93名中91名の回答（1月30日現在）</p>		「ア 十分納得している。」	77名	「イ どちらかといえば納得している。」	10名	「ウ どちらかという不満である。」	2名	「エ 全く不満である。」	2名	「オ その他」	0名
「ア 十分納得している。」	77名											
「イ どちらかといえば納得している。」	10名											
「ウ どちらかという不満である。」	2名											
「エ 全く不満である。」	2名											
「オ その他」	0名											
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路オリエンテーション（全学年） ・進路ガイダンス（全学年） ・進路関連検査（全学年） ・本校会場の企業説明会（6月16日 参加企業数43社） ・インターンシップ（7月 2年生全員） ・卒業生講話（1年：2月、2年：3月） ・応募前職場見学、オープンキャンパスへの参加（3年） ・就職、進学に向けての準備と指導（3年：面接練習、作文・小論文指導、進学補習） 											
評 価	A	就職において、大手中小を問わず求人数が増加した一方で、本校の卒業予定者数が減少したため、県内企業だけでも求人倍率が10倍を超えた。多くの生徒が第1希望の企業を受験し、内定をいただくことができた。このことから進路先に納得している生徒の割合が高くなったと考えられる。										
学校関係者の意見	更に達成度を上げるには、不満であると回答している生徒の理由を精査し、対応する必要がある。											
次年度に向けての課題	良好な結果であった理由は、潤沢な求人状況であり大多数の生徒が第1希望の就職希望先に選考試験を受け内定を頂いたためである。以降も求人状況に依らず高い満足度を得るため、進路相談への丁寧な対応に心がけ家庭と連携を強めていく必要がある。											

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和6年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動加入者への積極的呼びかけと部活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 部活動への加入率は、4月の時点で1年93.3%、2年95.5%、3年86.0%であった。 1年生は今年度から全員加入制を廃止したため、加入率が減少すると考えられる。 2、3年生は新規に加入する生徒は少ないと思われるため、加入率について現状を維持するとともに、積極的に活動に参加する生徒の割合を向上させる必要がある。 良い結果を求め、継続して部活動に参加し、積極的に練習に取り組んでいる生徒が多いが、その反面、部活動を欠席しがちな生徒もいる。部活動の更なる活性化のため、継続率の維持・向上を図ることは勿論、活動内容の改善を行うことも必要である。 	
達成目標	① 部活動加入率	② 部活動積極的参加率
	5月時点 90%以上 9月時点 87%以上 1月時点 85%以上 ※全員加入制廃止の影響を考慮し、学期毎に目標値を設定する。	5月時点 90%以上 9月時点 85%以上 1月時点 85%以上 ※部活動への参加状況をA～Cの3段階で評価し、A（ほぼ参加）およびB（7割程度以上参加）となる生徒の割合
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 1年生には、部活動の意義を説明する機会を増やす。また、クラス担任からだけでなく、特活部員・学年主任・学科主任などからも、積極的に参加するよう呼びかける。 2、3年生には、新しく後輩が入部してくるので新たな気持ちを持ち、先輩らしい行動・言動等により、1年生の手本となるよう指導する。 各学期中に活動状況を調査し、担任が各生徒の活動状況を把握し易くするとともに、保護者会等で保護者と情報交換することで、生徒への啓発を促す。 夏季休業時の活動の重要性を周知するとともに、各顧問が参加状況を的確に把握することで、生徒の活動状況の管理に繋げ、生徒の活動意欲の低下を未然に防ぐ。 部活動を辞めたい生徒に対しては、進路指導やキャリア教育と絡めて部活動の重要性などをクラス担任や関係職員から説明するとともに、生徒の人間関係等にも留意し、必要に応じて保健部相談係の協力を仰ぐ。それでも継続が難しい場合は、他の部活動への転部も視野に入れた対応を進める。ただし、強制はしない。 	
達成度	5月時点 90%以上→ 91.5% 9月時点 87%以上→ 86.7% 1月時点 85%以上→ 85.2%	1年生 90%以上→ 91.7% (9月91.9% 1月90.1%) 2年生 85%以上→ 90.3% (9月88.5% 1月92.2%) 3年生 85%以上→ 94.9% (9月94.9%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事として部活動紹介や部結成の日を設けた。 部顧問会議において、顧問が活発に部活動を行えるよう、①進路指導を絡める、②社会人としての礼儀等の指導を行う等、生徒がやり甲斐や向上心をもって部活動に取り組める指導方法を情報交換する等の工夫を行った。 1、2学期末に、各部顧問による活動状況の評価とコメントを、学年・担任に提供し、保護者懇談会を利用した個別指導に生かせるよう配慮した。 2学期始めにも調査を行い、夏休み中、活動が思わしくない生徒を把握し、面接週間時に担任からの声掛けをしてもらい部活動の継続、積極的活動に繋がるようにした。実際には各顧問に任せられた形となった。 部活動の指針に合わせて、無理のない活動になるよう努めた。 	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> 9月時点の部活動加入率を除き、目標を達成した。 どの学年についても、積極的に参加している生徒は一定数存在する。 9月時点の部活動加入率が、5月の調査からの減少が大きいのは夏休み中の活動状況が関係していると考えられる。
学校関係者の意見	生徒数減もあり、今後の見通しとして部活動を継続できるか心配している。部活動での団体行動をとって人間関係を学ぶことは、社会生活や就職において大切だと考えている。時勢的には強制できないということも分かるが、複雑な思いである。	
次年度へ向けての課題	今年度どおり、学校全体で生徒に部活動の大切さを積極的に呼びかけ、加入率・積極的参加率を維持、継続できるようにする。 現状を考え部活動内規の変更を行い同好会は廃止した。人数が少なくなった場合や合同チームになった場合の規定も考えていかななくてはならない。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和6年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活・睡眠・運動等、生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。 ・特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満等、心身の健康と相関し、学校生活に悪影響を及ぼしている。 	
達成目標	睡眠時間6時間以下の生徒の割合 20%以下を維持する。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣調査を年2回（6月、10月）実施し、各自の生活を振り返らせる。 ・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。 ・担任や部顧問との連携を図り、保護者会等で保護者に協力をお願いする。 ・外部講師を招き、集団保健指導を実施する。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期 19% (52人) ・2学期 10% (27人) ※生活習慣調査で24時以降に就寝した生徒は、6時間の睡眠を取れていないとした。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣調査を6月と10月に実施し、生徒自身の生活習慣について見つめさせる機会を設けた。 ・6月の調査で24時以降に就寝したと回答した生徒全員に対し、睡眠の大切さを伝える10分程度の動画を視聴させた。 ・10月の調査では該当生徒を個別で指導した。個別指導をした生徒には、その後も声掛けを行った。 ・保護者会資料として調査結果、及び睡眠の大切さに関する資料を配布した。 ・12月に開催した学校保健委員会で、本校スクールカウンセラーによる講演に、睡眠の大切さを盛り込んでいただいた。 ・1学年の共通HR「健康を考える日」では、生活リズムについて生徒に考えさせた。 	
評 価	A	本年度は、睡眠の大切さについて意識させることにした。24時以降に就寝した生徒の割合が1学期、2学期とも目標である20%を下回ったため、評価をAとした。昨年の調査結果では24時以降に就寝する生徒が25%いたことを考えると指導の成果もあったと思われる。
学校関係者の意見	学校の先生方の温かい心が大切で、特に養護教諭の存在は非常に重要だと考えている。現代社会は嫌なニュースが多い時代であるため、生徒たちが抱える様々な問題に対し、先生方が優しい声掛けや温かいまなざしで接してほしいと願っている。	
次年度へ向けての課題	睡眠の時間だけでなく質も大切であるとする。質問内容をさらに工夫し、生徒の睡眠の質についてもわかるようにしたい。そして改善に繋げていきたい。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)